

トムラウシ山に続いての幌尻岳である。入下山コースとしては最も一般的な額平川コースを選択した。幌尻岳登山の拠点となるとよぬか山荘、とよぬか山荘から第2ゲートまでのシャトルバス、そして山中のベースとなる幌尻小屋、いずれも事前予約制である。これら3点が一元管理されているのは利用者としてありがたいことである。予約上、一番制約を受けるのが宿泊人数制限のある幌尻小屋である。幌尻小屋から幌尻岳山頂の往復で7時間を必要とするため、我々としては幌尻小屋に2連泊する必要がある。しかし、メンバー3人分のことではあるが5月の予約時点でも思うようには2連泊が取れない状況であった。また額平川コースは何回もの渡渉の繰り返しが必要である。経験者からは沢靴が必要とアドバイスされ、筆者としても沢靴を購入した。他にヘルメットとφ6mm×5m程のロープをそれぞれのメンバーが携行することとした。

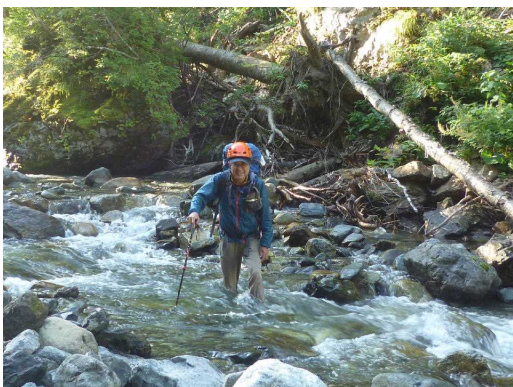
(9月2日)

とよぬか山荘の施設は、廃校になった校舎を利用したもので、頑丈なつくりの2段ベットを配置した12人部屋が2部屋、食堂、談話室、ミーティングルーム、売店(ビールあり)、それに風呂があり、夕食といずれもおにぎりの朝食弁当+昼食弁当を¥5,000-で提供してくれている。

前々日のトムラウシ山登頂では所要時間が13時間にも及んだが、昨日は車での移動だけだったので、すこしは休養になった様に思う。

第2便のシャトルバスで第2ゲートバス停に着いたのが9:00前。バス停には工事現場で見かけるトイレBoxが2つ、水を流しっぱなしのホースがある。

9:00にバス停を出発。良く整備された砂利道を進み北電取水施設に着くと、先行者達が沢靴に履き替えている。地図上の渡渉開始地点はもっと先であるが、聞くと「ここで履き替えておく方が、2箇所ほどの歩きづらい高巻き道を通らなくて済む」と言う。我々もここで沢靴に履き替えることにした。渡渉回数は登りと下りで、大きなコルジュでのトラバース等をしたかしたかの差はあるが、21回から23回ぐらいである。また水深は深いところで膝の高であった。筆者の場合、T型3段式ストックの上の結び目が丁度膝の高さと一致し水深を探る目安になった。



水深を探りながら渡渉する筆者



幌尻小屋全景

幌尻小屋には14:05に到着。小屋の管理人からは就寝場所の指定、小屋の中には寝具以外は持ち込まないこと、荷物の整理は小屋の前のブルーシートの上ですること、ザックは小屋の床下の荷物室入れることなどの指示を受けた。

(9月3日)

6:20分に小屋を出発、少しもたついたためドン尻の出発となった。道は樹林帯の急登から始まる。命の水を過ぎてしばらくすると、森林限界に達する。さらに登り1つのピークに達すると、幌尻岳山頂を見ることが出来る。山頂付近全体がなだらかに見えるため、初めての者にとっては何処が山頂なのかの判断がつきにくい。ここからは道の傾斜もすこし穏やかになり歩きやすくなる。登るにつれて山頂の判断が変わり2度の修正を余儀なくされた。結局山頂は最初に山頂ではと判断した直ぐ右手のピークであった。

10:40に山頂に到着。好天に恵まれ視界は抜群であるが、北海道の山に不慣れな我々、どれが何山かが判らない。頂上は北風が強く、風を避けて休憩。

帰りは、来た道を引返す。途中で本日の1便のシャトルバスで来た8人の人に遇ったが、いずれも単独であった。あまりの健脚さに同行者が見つからなかったのでは、とも思った。

沢を渡渉する際の服装だが、9割方の人が短パンにタイツ姿で、皆さん準備が良いなと感心させられた。筆者は登山ズボンのままであったが、登山ズボンはある程度撥水性があるので水を含んでも、沢から上げれば直ぐに乾いてしまった。

幌尻小屋での調理に必要なガス缶は新千歳空港内のショップで購入可能である。我々の場合のガスの消費量としては、アルファ米の保存食を主体に、汁物とお茶を夕と朝、昼の行動用のお湯を含めて、まる2日分×3人分をまかなって、250gのガス缶1缶で少し残った程度であった。

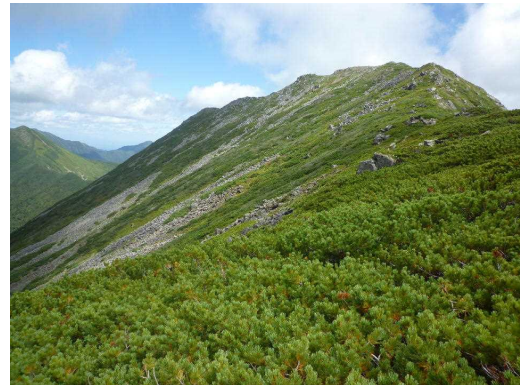
◆メンバー：K、Shiba、他1人

◆コース：(9月2日) 第2ゲートバス停 9:00～北電取水口～幌尻小屋 14:05

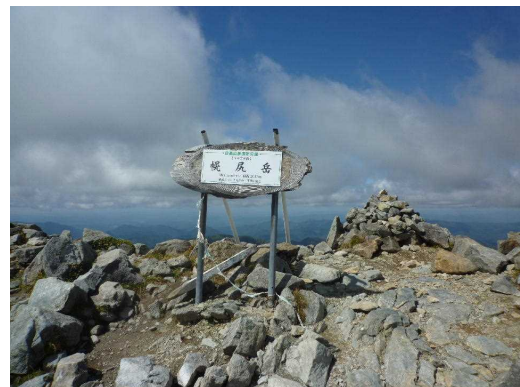
(9月3日) 幌尻小屋 6:20～命の水～幌尻岳山頂 10:40～幌尻小屋 14:50

(9月4日) 幌尻小屋 6:30～北電取水口～第2ゲートバス停 11:25

◆所要時間／歩行時間：(9月2日) 5時間05分／4時間30分、(9月3日) 8時間30分／7時間15分、(9月4日) 4時間45分／4時間05分



稜線から望む幌尻岳



幌尻岳山頂の標識